



ハ ー モ ニ ー 広 場

2014 Vol. 65

男女共同参画社会を目指して



子どもたちに大人気!
「絵本ライブ」で恩返し
NPO法人ファザリング・ジャパン
木村隆弘さん

それぞれの男女共同参画

p.2-3

チャレンジストーリー

個人
の取り組み

「笑っている父親を増やそう！」

NPO法人ファザリング・ジャパン
Smile Bank
全国父子家庭支援連絡会 理事 木村隆弘さん

団体
の取り組み

「“子なれた社会”を目指して」

NPO法人子連れスタイル推進協会
代表理事 光畑由佳さん・今井聡美さん

事業所
の取り組み

「3つの柱で女性活躍推進に取り組む」

日本政策金融公庫
水戸支店 支店長 古川裕士さん
さいたま支店 北関東ブロック女性活躍推進担当 太田恵子さん
水戸支店 鴨志田沙織さん・新保理奈さん

p.4 情報広場

男女共同参画推進月間特集

県では、職場や地域、家庭などにおける男女共同参画への関心と理解を深め、様々な活動が積極的に行われるよう、県男女共同参画推進条例に基づき、毎年11月を男女共同参画推進月間と定めています。今年度は11月28日(木)に、男女共同参画の推進に功績のあった個人・団体・事業所の方々に贈りする「ハーモニー功労賞」の表彰式を開催しました。



個人の部



鈴木 君伊さん
(北茨城市)

東日本大震災時に女性グループをまとめて地域の被災者支援に取り組んだほか、地域の観光拠点施設である市場食堂の再開に取り組むなど、震災からの復旧・復興における女性リーダーとして活躍し、地域における女性の社会参画に貢献した。



関 沙雪さん
(常陸太田市)

農業後継者として米の生産や常陸牛の飼育に携わるとともに、関東ブロック農村青少年クラブ連絡協議会会長として若手農業者の連携や女性農業者によるメールマガジンの発行に取り組むなど、若手女性リーダーとして活躍し、農業分野における女性の社会参画の途を広げている。

団体の部



いばらき農村女性
ネットワーク
(神栖市)
代表 原 範子さん

女性の視点を生かした農産加工・起業研修会や農業者と消費者・他業種間交流会の開催、地産地消の推進や子どもへの食農教育など、6次産業化に取り組む農業者の育成や、地域農業の活性化に尽力し、農業分野における女性の地位向上に寄与している。



日立市らぼーる協会
(日立市)
代表 皆川 悠美子さん

女性を対象とした就労支援事業や市民向けの啓発事業に取り組むほか、ドメスティック・バイオレンスに関するシンポジウムや相談員研修の開催、「DV被害者支援基金」の設置など、DV被害者支援事業に取り組んでおり、女性の地位向上や女性問題の解決に貢献している。

事業所の部



筑波大学附属病院(つくば市)
総合臨床教育センター副部長
(女性医師キャリア支援コーディネーター)
瀬尾 恵美子さん

「女性医師看護師キャリアアップ支援システム」により、子育て中の女性医師・看護師が働き続け、キャリアアップできる研修プログラムを実践するとともに、短時間常勤制度の導入など子育て支援の環境整備を進めるなど、職場における男女共同参画の推進に取り組んでいる。



みつえるくらぶみつえる保育室
株式会社プリマベラジャパン
(牛久市)
代表 鶴崎 智子さん

子育てや介護などで時間に制約のある女性が働きやすいように、働ける時間や曜日などの希望に柔軟に対応できる勤務体制を整え、その意欲と能力を活用できる職場環境の整備に努めるなど、職場における男女共同参画の推進に取り組んでいる。

「ハーモニー功労賞」受賞者の皆さん

それぞれの男女共同参画

チャレンジストーリー

「チャレンジストーリー」では、個人・団体・事業所の皆さんのチャレンジをご紹介します。

起業、地域活動、働きやすい環境づくりなど

さまざまな分野で広がる男女共同参画社会。

それぞれの活動を参考に、皆さんも

新しいチャレンジを始めてみてください。



Challenge! story |
個人の取り組み紹介

笑っている父親を増やそう!

ファザーリング・ジャパンは、平成18年に誕生した日本で初めての父親支援に特化したNPO法人です。ファザーリングとは、「父親であることを楽しむ」という意味。講演会「ウォーラム・セミナー」の開催や父子家庭支援など、幅広い活動のコンセプトは、「笑っている父親を増やそう」ということにあります。

木村さんが活動しているのは、絵本ライブ。「既存の絵本の読み聞かせをするのですが、シーンに合わせてBGMを流したり、かけ声などが入るので臨場感があり、子どもたちが夢中になって聞いてくれます」とのこと。木村さんが絵本ライブを続けている根底にあるのは、「恩返し」だと言います。「3年ほど前に妻が発病し、闘病生活が始まりました。それまでは家事も三人の子どもの子育ても、それほど関わっていなかったのですが、自分にとって全く予期せぬ出来事でした。そのときに、地域の方々や学校



NPO法人
ファザーリング・ジャパン
Smile Bank
全国父子家庭支援連絡会
理事
木村隆弘さん

の先生などにもとてもお世話になりました。残念ながら妻は他界しましたが、絵本ライブは支えてくださった皆さんへの恩返しです」と木村さん。これまでに小学校や幼稚園、放課後児童クラブ、東日本大震災の被災地の岩手県大槌町でもライブを行っています。

木村さんがファザーリング・ジャパンを知ったきっかけは、「インターネットで自分と同じ境遇の人や父子家庭を検索していたら、ファザーリング・ジャパンがやたらと出てくるので興味を持ちました。流行のイクメン集団かな、自分とは立場が違う」と感じたそうです。しかし、九州支部のシングルババとブログやツイッターで交流が始まり、活動内容を知るとともに、絵本ライブを実際に見て感銘を受けて「自分もやりたい」と思ったそうです。

また、木村さんは全国父子家庭支援連絡会の理事としても活動しています。「父子家庭の支援は母子家庭よりも、約60年遅れて制度が整ってきました。父子家庭への児童扶養手当の支給など制度が一段落したので、今後は周知させて行く活動が必要だ」と木村さん。そして何よりも、「子どもたちの笑顔を守るためには、親も支援することが必要だ」と言います。

このような活動を通しての喜びは、「人との出会いにより、様々なことを学んだこと。おそらく一人親にならなければ、出会わなかった人たちに会えたことが財産になっています。絵本ライブを継続して行くことが、これからの大きな目標です」とのこと。家事と子育てと仕事と活動の多忙な日々を送りながら、木村さんは父親であることを楽しんでいきます。



▶▶「絵本ライブ」は子ども達にも大人気



団体の取り組み紹介

「子なれた社会」を目指して。



▲上段中央 光畑さん、下段右 今井さん、スタッフの皆さん

NPO法人
子連れスタイル推進協会
代表理事 光畑由佳さん
今井聡美さん

子連れスタイル推進協会の代表理事は、母乳育児を快適にする授乳服の企画開発や販売を行うモーターハウスの代表でもある光畑さんです。平成25年2月に「子育てと社会が共存する子連れスタイルこそ、お母さんはもちろん、男性・女性・社会・企業・地域・社会を変える第一歩になる」と子連れスタイル推進協会を立ち上げました。

子連れスタイルが目指すのは、「子なれた社会」、そして社会に「子連れ」をミックスすることです。事業には3つの柱があり、一つは個人向けの「子連れスタイル推進事業」。子連れのお母さんたちがイベントを企画し、地域の皆さんに参加してもらい、子連れでできることや子連れスタイルを体験してもらおうというものです。二つ目は、企業向けの「ワークライフミックス事業」。子連れ出勤をしているワーキングママの見学会や、子連れのワークコンサルティング、復職するママ向けの講座などを開催しています。三つ目は、自治体向けの「産後生活支援事業」。地域

の人々向けのお出かけ講座やバスツアーなどを開催し、子育ての指標を自分たちでつくり、良い加減で子育てができる地域社会をつくることを支援しています。セミナーやイベント時には、子連れで参加し、必要な時に子どもを預けられるフレキシブルな託児も行っています。

光畑さんによれば、仕事は仕事、家庭は家庭、という社会構造になっている現代で、ワークライフミックスは、仕事の場に家庭を、家庭の中に仕事を取り入れてもいいのではないかと、なぜならその二つは切り離せないのだからという考え方なのだそうです。それは、子どもがいる中で仕事をしていた、昔の日本社会への原点回帰でもあるとのこと。

子連れスタイルが目指す「子なれた社会」について同協会の今井さんは、「子どもが減少し、社会全体が子どもとどう接していいかわからない感覚があります。自分たちの活動を通して、子どもや子連れに自然に接することができる子なれた社会を実現して行きたい」と話しています。光畑さんは、「まずは子連れのお母さんに自信をつけてもらうために、地道な活動をしています。そしてもう一つは、それを受け入れる社会の体制づくりも重要です。お母さんと地域の双方で、子なれた社会を目指して取り組んでいきます」と意欲的です。

事業所の取り組み紹介

3つの柱で女性活躍推進に取り組む。



▲左から鴨志田さん、古川さん、太田さん、新保さん

日本政策金融公庫
水戸支店 支店長 古川裕士さん
さいたま支店 北関東ブロック
女性活躍推進担当 太田恵子さん
水戸支店 鴨志田沙織さん
水戸支店 新保理奈さん

平成20年10月に、国民生活金融公庫、農林漁業金融公庫、中小企業金融公庫が統合し、日本政策金融公庫が誕生しました。当時の公庫は全体の4分の1が女性職員、しかし女性管理職はわずか1%。「もっと女性に活躍して欲しい」という総裁の意向から、平成21年度から女性活躍推進の取り組みが始まりました。その三本柱となっているのは、①女性のキャリア開発、②ワークライフバランスの支援、③啓発・風土改善です。

まずは第1ステップとして、継続して働き続けられる支援策を整備。「転勤制度を見直して、総合職の女性が結婚した場合に一次的に転勤転居を免除する制度や、地域を限定して勤務するエリア職が配偶者の異動等に伴い、勤務エリアを変えることができるという制度を整備しました」と太田さん。さらに効率化による勤務時間の短縮やノー残業デー、計画的な休暇の推進を行いました。

第2ステップとして、女性のためのキャリアアップの道を開く意識付けをしました。平成30年までに女性管理職5%達成を目標

標に、総合職の新人採用の3割を女性にしていること、及び管理職候補者の育成体制も整備しました。管理職に占める女性職員は現在2・1%、徐々に成果が表れています。そして、現在は第3ステップ、女性管理職の積極的登用の入口まで来ています。

県内の支店では、平成24年7月から水戸・土浦・白立の3支店連携による取り組みが始まりました。女性職員同士のネットワークの構築、職場参観の実施、ダイバーシティ勉強会、地元女性経営者との意見交換会など積極的に活動しています。水戸支店の鴨志田さんは「女性活躍と言っても、女性だけが活躍すればいいのではなく、誰もが働きやすい職場を作っていければと思っています」とのこと。同支店の新保さんは「直属の上司が女性課長です。事務のスペシャリストから課長になったので、経験に基づいたアドバイスがもらえてとても仕事しやすいです」と話していました。同支店長の古川さんは今後の取り組みの一つに風土改善があります。環境は整ったので、あとは意識の問題です。それをみんなで変えていこうという段階にきています。ワークライフバランスも含めて、男女問わず働きやすい職場にしていこうというのが最終目標。女性活躍を推進することで、男性職員も働きやすい職場になるということを醸成していきます」ということでした。働き方と意識の両面から、一丸となって変革を進めている事業所です。

ハーモニー フライト

2013

harmony flight

県では、国内、海外における調査・研修を通して、政策・方針決定過程に参画できる女性人材を育成することを目的として、ハーモニーフライト事業を茨城県女性団体連盟に委託して実施しています。

昨年9月29日から10月6日までの8日間、川澄清子リーダー及び15名の研修員がスウェーデンとフランスを訪問し、男女共同参画、福祉・生涯学習、子育て・まちづくりについて調査・研修を行ってきました。研修の成果は、2月14日(金)にレイクエコーで開催される「茨城県女性団体連盟のつどい」の中で報告される予定です。

情報 広場



2013.12.19

働く女性のセミナー (@イーアスホール)を開催しました



県では、キャリアもライフも両方を楽しみたい働く女性を対象に「働く女性のセミナー」を開催しています。セミナーでは、県内外で活躍する女性をゲストに迎えお話を伺うとともに、参加者同士のざっばらんな情報交換も行っています。

第3回目となる今回は、平成25年12月19日(木)、つくば市のイーアスホールにて「働く女性のセミナー～女性を楽しむ生き方～」を開催し、50名の県内在住または在勤の働く女性と、働く女性を応援したい男性が参加されました。今回のセミナーは、県と常陽銀行によるコラボ企画という初の試み。

ご登場いただいたゲストは、(株)カスミ商品本部地域商品開発担当マネージャー 伊神里美さんと、(株)常陽銀行水戸ローンプラザプラザ長 平山陽子さん。お二人のキャリアストーリーを、インタビュー形式で伺いました。働く女性へのメッセージとして伊神さんは「とにかく一歩前進すること。ほんのわずかな一歩でもいいから前へ出よう。困った時には人に頼ってみよう、それが大きな力になるから。仕事が上手い人は、人と連携をとることが上手です」と、平山さんは「頑張ることももちろん大切です。しかし行き詰まった時にはまず肩に入ってしまった力を抜いてみましょう。そして自分をこっそり褒めることも大事です」と話されました。

トークの後は、参加者同士の情報交換・ネットワーキングが行われ、ゲストのお二人ともになごやかな交流の時間を過ごしました。

2月には、再びつくば市で開催の予定です。お子様とご一緒の参加や託児も行っていますので、働くママの皆さんも是非ご参加ください。

